

[総括コメント]

- 1) 日本語の医学論文では(研究課題を示す)「表示的表題」"indicative title"が愛用(約 80%)されているが、一流の英文医学誌では、この表題だと編集長が抄録も読まずに即座に reject する。必ず(研究成果を示す)「内容的表題」"informative title"のみを使用する習慣を身につける。
- 2) Paragraph を更新する際、日本語では 1 文字分の space を開けるが、英文ではアルファベット 5 文字分の space を開ける。パソコンの space key を 5 回叩く。Paragraph の頭に space を開けない最近の傾向は正式の文章では避ける。
- 3) 月日と年の間には必ずコンマを挿入する。November, 2021 や December 22, 2021 のように。
- 4) Tomography の語尾変化に留意。Tomograph は断層撮影装置、tomography は断層撮影、tomogram は断層画像。従って tomographic image → tomogram とする。
- 5) "7.0±0.3 cm"のような記載が愛用されているが、これでは 0.3 が standard deviation (SD)なのか、standard error (SE)なのか不明なので推奨されない。しかも日常的に愛用されている cc、cm は正式の論文では cc は l 又は ml に、cm は m もしくは mm の何れかに変更しなければならない。従って上記の例は、"70, SD 30 mm"としなければならない。また例えば"165 cm"は"1.65 m"とする。略語に複数の"s"は付けない。
- 6) 英文カルテの記載などでは、patient → Pt、fracture → Fx、diagnosis → Dx などのように一つの word の略語が愛用されているが、医学論文のような正式の英文では 1 word の略語は、単位記号を除いて認められない。従って pressure を PS または Ps と勝手に略してはならない。
- 7) 固有名詞や薬品の商品名のような場合を除いて、文中の一般名詞や一般薬品名の頭文字を勝手に大文字にしてはならない。"Possibility using Wall Shear Stress (WSS) and Pressure (PS) based on Computational Fluid Dynamics (CFD) analysis remain controversial."は"Possibility using wall shear stress (WSS) and pressure based on computational fluid dynamics (CFD) analysis remain controversial."とする。
- 8) 英文では文頭に算用数字を使用してはならない。Spell out するか"A total of 算用数字"を用いる。"74 patients were enrolled in this study."は"Seventy-four patients were enrolled in this study."とするか"A total of 74 patients were enrolled in this study."と訂正する。大きな数字は spell out は大変なので、"A total of 算用数字"を常用する。
- 9) Male, female は動物に使う場合には名詞、形容詞の何れでも使えるが、人間には形容詞としては使えるが、名詞としては使用しない。日本語でのオス、メスが動物には名詞、形容詞の何れでも使えるが、人間にはいずれも使えないのと似ている。成人なら man, woman, 未成年なら boy, girl を使うが、年齢的に両方を含む場合には、male patients、

female patients とあくまで形容詞として使用する。”A 57-year-old male suffered from embolic strokes.”は”A 57-year-old man suffered from embolic strokes.”とするべきで、man が使えるのにわざわざ”A 57-year-old male patient suffered from embolic strokes.”とはしない。同様に”male adult”は”man”と言う。

- 10) 日本語の医学論文では患者と言う名詞が頻用されているが、英文では he, she, they など代名詞を使用し、patient の使用は可能な限り控えるか、全く使用しない工夫をする。
- 11) 日本語では「患者は脳腫瘍と診断された。」と言えても、英語では”The patient was diagnosed as having a brain tumor.”または”The patient was diagnosed with a brain tumor.”と言わなければならない。”The patient was diagnosed as a brain tumor.”と云えば患者自身が脳腫瘍そのものになった意味になってしまう。「患者は脳腫瘍になった」という意味で米英の医師も”The patient developed a brain tumor.”と言っているが、bilingual の米人英語学者の Nancy Yamada 先生によれば、患者が自分で勝手に脳腫瘍を発生 develop させることはできないので、この英文は間違いで、”A brain tumor developed in the patient.”もしくは”The patient suffered a brain tumor.”と言わねばならない。
- 12) 「国際定量単位」以外の全ての略語には full spelling を示した説明が必須である。説明なしに CT scan や MR image などの略語をいきなり使用してはならない。
- 13) 英語の医学用語には、biopsy (言語学的には名詞のみ)を除いて、名詞(例: resection)と動詞(例: resect)が対をなして存在するが、日本語の医学用語には名詞(例: 切除)しかない。和文英訳に際しては名詞の動詞化をしないと複雑極まりない英文となる。日本語を直訳して”Resection of the osteochondral tissue was performed.”としないで”The osteochondral tissue was resected.”と簡潔明瞭な英文 simple and clear statement に英訳するコツを習得して欲しい。Biopsy については、実際には米英人の医師も”We biopsied the tumor.”のように動詞として使っているが、Nancy Yamada 先生によればこれは言語学的には明らかな間違いと主張され、米英の医師に聞いても「言語学的に間違いなのは分かっているが、便利だから使っている」とのことであるので、日本人は使用すべきではない。
- 14) 日本語では「病理組織学的」という言葉が愛用されているが、英語では”histopathological(ly)”より簡潔な”histological(ly)”が愛用されている。
- 15) 麻痺を意味する palsy は一般用語で、医学専門用語では paresis (不全麻痺)と paralysis (完全麻痺)を区別すべきである。
- 16) Limb は動物の前肢・後肢の forelimb, hindlimb に使い、人間では extremity を使い、上肢・下肢は upper extremity, lower extremity と言う。

【参考文献】

植村研一: 新訂: うまい英語で医学論文を書くコツ A guide to comfortable English, 医学書院、2019.